

漢方を扱う「街の薬屋さん」は、誰でも気軽に行ける健康相談スポット。今回は、札幌市白石区で漢方相談を行っている「北海道中医薬研究会」の河野裕樹さんに話を伺いました。



vol.31 街の身近な  
**健康相談**

僕は厳選した  
中成薬を扱う  
会員店の目印だよ。  
気軽に相談に来てね!



ニーハオ・シンシン(星星)

**中医学では人間は自然界の一部  
西洋医学との違いに改めて注目を**

**分析力に優れた医学と  
バランスを整える医学**

漢方を上手に活用するためのこの連載企画も、今年で5年目を迎える。そこで今回はあらためて、基本に目を向けることに。「中医学(中国の伝統医学)」と西洋医学との違いをテーマに、札幌市白石区にある「かささぎ薬局」の薬局長・河野裕樹さんから話を伺った。

「西洋文明で成り立ってきた西洋医学は、細かく分析して病気の原因を探し出し、それを体から取り除くことが得意な医学。一方、中医学は病気によって起きた事象を分析し、全体を俯瞰しながら体のバランスを整えていく医学です」と河野さん。

中国には昔から「天人合一」という思想がある。人間は自然界の一部であり、自然界で起こる法則は人間の中でも起こるという考え方だ。中医学は自然と人間は切っても切れない関係と捉える。「自然と人間を切り離して考える西洋医学とは、根本的な発想が違いますね」。

さらに、薬の意味合いも異なるそう。「西洋医学は病気の原因となる細菌やウイルスを特定し、薬で殺して排除するという考え方です。中医学では、病気を引き起こす原因となるものを邪と呼び、これを殺すので

**かささぎ薬局**  
薬局長 河野 裕樹さん

お答えします



漢方相談時にハーブティーをお出ししています

はなく病人の体から追い出すという発想をします」。例えば、中医学では風邪は2種類あると考えられている。寒さが原因で起きる「傷寒」と、暖かい時季や夏場に増える「温病」だ。傷寒は体を温める中成薬(漢方薬)を使って汗と一緒に寒邪を体外に出し、温病は体にこもった熱をとる中成薬で温邪を弱体化させて追い出す。邪を特定し、その性質を利用して体から追放するのだという。

「西洋医学は分析力に優れている。中医学は病名が分からない場合でも、症状を見て体のバランスの崩れに対処できる。それぞれの良さを生かして付き合うと良いと思いますよ」。実際に中国では、両方の長所を取り入れた「中西医結合」という医療

も実践されている。その中で1960年代に、心疾患の治療薬として『冠心II号方』が作られた。後に冠心II号方を基に日本で開発されたのが、『イスクラ冠元顆粒』だ。数千年の歴史を持つ中医学だが、各学派の理論を体系的にまとめた現在の形が出来上がったのは、文化大革命の頃だそう。中医学は古くて新しい医学と言えるだろう。今は春の環境変化のストレスの影響で体調を崩しやすい時季。体調に不安を感じたら、お近くの会員店に気軽に相談を。

**北海道中医薬研究会について**

北海道中医薬研究会は、中医学の理論と臨床経験に基づいて、地域医療への貢献を目指す団体。道内各地に全41店舗の会員店があります。

札幌市内17店舗をはじめ、道内各地の会員店の詳細は、右のQRコードにアクセスすると見ることができます

<https://hokkaido-kanpo.com/>

北海道中医薬研究会



最寄り駅は地下鉄東西線白石駅

薬剤師。「漢方の四診をつくり上げた」とされる古代中国の伝説の医師・扁鵲(へんじゃく)先生から、鵲(※訓読みでかささぎ)の一字をいただき店名にしました。扁鵲先生のように、地域の皆さんの健康をサポートしていきたいです」

札幌市白石区東札幌3条5丁目3-30 電話: 011-826-3950

営業時間: 月曜13:00~18:00、火~金曜10:00~18:00、土曜10:00~15:00 定休日: 日曜・祝日

<https://kasasagi.co.jp>

